

平成25年度 高校生と赤ちゃんのふれあい体験についての記録

松戸市子育て支援課の協力のもと、2年生の家庭科で「高校生と赤ちゃんのふれあい体験」授業が行われました。今年度で3回目となります。この行事の目的は、命の大切さや育児の大変さを知り、将来的な親力の向上につなげることです。6月11日（月）から19日（水）までの間、2年生の全クラスの生徒が体験しました。生徒たちは、赤ちゃんとのふれあいながら、また、お母さんやお父さんから、お腹のなかの赤ちゃんの写真や動画をみせてもらいながら、説明を聞き、育児の大変さや命の大切さを学びました。生徒たちは、ふだん、教室ではみることができないような表情をみせてくれます。お母さんからは「自分が高校時代はこのような企画はなかった。高校生の皆さんが真剣に質問し、理解しようとしてくれたことはとてもうれしい。子育ての初心に戻ることができた。」等の感想をいただきました。

6月21日（木）の午後に、2年生対象に「生命を育む”生と性”」という演題で、講演会が行われ、生徒たちは、命の大切さを再確認するとともに、今後、どのように生活していけばよいかを考える機会となりました。

2013/06/06

連日、2年生の家庭科の授業では、赤ちゃんの人形を用いて、どのように赤ちゃんを抱っこするのが安全なのかを生徒に考えさせ、確認させています。生徒一人一人が体験しました。



2013/06/10

今年度の、赤ちゃんとのふれあい体験の会場は、介護実習室で行われます。

7日（金）放課後、設置されていたベッドを他の教室に移動し、掃除をしました。室内の壁には、イラスト・漫画部員により作成された絵やポスターが、彼ら自身の手によって、掲示されていきました。イラスト・漫画部に所属する部員の数がとても多いことに、少し驚きましたね。

いよいよ、明日から、高校生と赤ちゃんのふれあい体験がはじまります。



放課後、松戸市の子育て支援課担当職員3名の方が来校し、必要なものを会場に運んでくれました。本校家庭科担当職員と最終打ち合わせを行い、さきほど終了しました。今年度も、参加したすべての人が、「やって本当によかった」と思えるような、充実したものになると信じています。

準備は整いつつあります。親子の皆さんが来校するのを、松戸向陽高校はお待ちしております。よろしくお願いいたします。



2013/06/11

高校生と赤ちゃんとのふれあい体験が行われ、23組の親子の皆様に来校していただきました。松戸市子育て支援課長様の話にもあったように、この行事の目的は、

- ・乳幼児の親子と直接ふれあい、命の大切さや子どもの愛おしさ、育児の大変さを知るきっかけとする。
- ・命の尊さを知ること、自分自身を大切にする心や自己肯定感を高める。
- ・少子化、核家族化が進む中、子育ての予備体験をし、将来的な親力の向上につなげる。
- ・保育スタッフとともに活動し、地域の子育て支援の話を伺い、社会全体での子育てについて理解を深める。

です。全体会が始まる前から、本校生徒は、お母さん、お父さんと会話を交わし、また、赤ちゃんを抱っこしている姿がありました。うまくコミュニケーションがとれていてすばらしいと感じました。

全体会は、「きゅうりができた」という手遊び歌ではじまりました。

生徒は、お母さんから写真やDVDの映像をみせてもらいながら、命の大切さを学びとっていったと思います。また、子育てについての話を聞きながら、育児の大変さを感じ取ったことと思います。毎年思うことですが、普段見られないような生徒たちのあの表情が本当にいいんです。

全体会の最後に、お母さんから、「あやしても泣き止まないこともあるなど、赤ちゃんの自由さがわかったと思う。街中で赤ちゃんをみかけたら、その自由さを理解してほしい。」、お父さんからは、「初心にかえることができてよかった。生徒の皆さんも、自分が赤ちゃんだったときの話を親から聞くとよいと思う。」、また、生徒からは、「普段赤ちゃんとはふれあうことがないから有意義だった。」、「赤ちゃんが産まれる前の話を聞いたり、おなかの中の赤ちゃんの写真やDVDをみせてもらって、赤ちゃんが活発に動いているところをみてすごいと感じた。よい経験になった。」との感想がありました。全体会が終わった後、お母さんたちからは、「生徒の皆さんは、元気でとても明るい。よい経験になった。」との感想が語られていて、本当にうれしく思います。生徒が書いた感想をいまみているところですが、その感想を読むと、いかにこの企画がよいものか、すばらしいものかがわかります。後日、生徒の感想も掲載したいと思います。

今日参加していただいた親子の皆様、松戸市子育て支援課の皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました。

関連する記事が、[校長ブログ](#)に掲載されています。





2013/06/12

赤ちゃんとのふれあい体験2日目が行われました。今日は2年7組福祉教養科の生徒が対象です。参加したお母さんから「私、高校時代に先生に教わりました。」と言われ、びっくりしてしまいましたね。カメラで何枚か写真を撮っていたら、まさかのバッテリー切れ。他のカメラで対応しました。

生徒たちは、赤ちゃん、また、お母さん、お父さんとよくコミュニケーションをとっていました。いろいろと質問していましたね。

生徒の感想としては、「お父さんと話をしていて、参考になる話を聞くことができた。」、「久しぶりに赤ちゃんと接して有意義だった。」との感想が、また、お母さんからは、「いつも部屋の中で過ごしているので、高校生や他の赤ちゃんたちと接することができて、とてもよかった。」、お父さんからは、「自分が高校時代は、このような行事はなかったと思う。とてもよい企画である。今日の体験を、生かしてほしい。」との感想がありました。機会があれば、また参加したいとも話してくれました。うれしいですね。

そういえば、私と目があうと、顔を隠してしまう赤ちゃんがいましたね。あれって、照れていたのでしょうか、それとも、さけられてしまったのでしょうか。ちょっと気になります。



2013/06/13

高校生徒赤ちゃんのふれあい体験の3日目が終わりました。今日の対象は2年4組でした。グループごとに、班長が質問し、それをお母さんたちが答えていきます。「子育てをされていて大変なことはどういうことですか。」「一番うれしかったことは何ですか。」などなど。お母さんと生徒とが笑顔で会話している姿がとてもよいです。今日は、お母さん同士が情報交換する場面も多くみられましたね。

上手にあかちゃんを抱っこしている生徒と話したら、やはり、兄弟の世話をしたことがあるとのこと。なるほどと思いました。お母さんから、生徒に赤ちゃんが渡されたときに、泣き出す赤ちゃん。生徒は、どうにかがんばろうとしていましたが、最終的にお母さんの元に戻り、泣き止むという場面も何度かみました。

生徒が身振り手振りで赤ちゃんをあやす姿もいいですねえ。本当に。

生徒の感想は、「かべにはってあるポスターをイラスト部の仲間と一生懸命につくった。間に合ってよかった。よい経験をした。」「陣痛の大変さを知った。」「お父さんが仕事に行ってしまった後、母親一人で子育てするのは、本当に大変であることがわかった。」など、また、お母さんからは、「自分が高校生のときは、このようなすばらしい企画はなかった。将来は絶対に役立つはず。」「とにかく妊娠中の母親は大変。生徒の皆さん、街中で妊婦さんをみたら、気遣ってほしい。」「家からでて、こういう機会がもててよかった。」等の感想がありました。

校長ブログにも関連する内容が掲載されています。



2013/06/14

今日も雨が降っています。連日の雨にちょっとうんざりといった感じですね。

さて、今日も赤ちゃんとのふれあい体験が行われました。対象は、2年1組の生徒です。赤ちゃん同士で、おもちゃを「どうぞ」と貸してあげている場面を目撃しました。赤ちゃんとお母さんとのふれあいにもなっていますね。実にいいですね。

最初の遊び歌では、「あたま、かた、ひざ、ぽん」と歌いながら、生徒たちも手を動かしていました。当初、若干、男子数名が、かたいというか、照れがあったようですが、後半は打ちとけていたように感じました。

班長からの3つの質問に答えるお母さんの話を、遊んでいる赤ちゃんのことを気遣いながらも、真剣に聞く生徒たちの姿がありました。他のお母さんも、「そうそう」と頷いている姿が見受けられましたね。お母さん同士が、育児の大変さや生まれてきてくれたことへの喜びなどを共有する場にもなっているのですね。

お母さんに、抱っこの仕方を教わっている生徒がいまいました。また、母子手帳や写真をみせてもらいながら説明を受けるといった経験は、生徒にとって本当に有意義です。

今日の生徒の感想は、インタビュー形式でおこなわれました。「最初は緊張していたが、赤ちゃんとおふれあえてよかった。」「赤ちゃんが生まれるまでのいろいろな苦労を知った。妊娠しているお母さんが病気になったときに、薬が飲めないときがあったと聞いた。本当に大変だと思った。」「赤ちゃんが食べ物を食べてくれないときがあったと聞いたが、自分が親の立場だったらどうするかを考えてしまった。」

お母さんからは、「自分も高校生の気分になれた。生徒の皆さんが、質問してくれて、理解しようとしてくれる姿が、とてもうれしかった。」「高校生とおふれあうことができてよかった。確かに子育ては大変である。私も、まだまだ子育てについてはわからないことが多いが、楽しむことが大切だと考えている。皆さんも、いずれ子どもが生まれたときに、子育てを楽しんでほしい。」

親子の皆さんを出迎えるところから参加していた担任からは、「生徒たちは、ふだん、教室ではみられないような、本当によい表情をみせてくれた。これから、立派な社会人として、父親として、母親として、成長して行ってほしい。」とのメッセージが送られました。

来週もふれあい体験は続きます。参加していただいた親子の皆様、今後、参加していただく予定の親子の皆様、ありがとうございます。また、毎日、準備から終わるまで関わっていただいている松戸市子育て支援課の皆様、お手伝いいただいているNPOの皆様、来週もよろしくお願いいたします。



2013/06/17

赤ちゃんとのふれあい体験が行われました。今日は、2年3組が対象クラスです。ずいぶんと、抱っこ仕方が上手な生徒がいたので、話を聞くと、いつもいこの面倒をみているとのことでした。スタッフの方は、お母さんも、生徒も話せるような進捗をさせていただいていましたね。「赤ちゃんの頃の話、親から聞いたことがある」という質問に、「よく泣いていたけど、抱っこされると泣き止んでいた、と聞いたことがある。」など、生徒たちの回答を聞いてみると、親子できちんと会話がなされているんだなと感じました。

お母さんからゆずりうけ、生徒が抱っこすると、泣き出す赤ちゃんもいて、生徒たちはおもちゃを使ったり、おもしろい顔をしたりして、泣き止むよう努力していました。脱走を試みて、違うグループの所に向かっている赤ちゃんの姿もみられました。

生徒からは、「赤ちゃんがかわいくてかわいくて、ついついニヤニヤしてしまった。体験談を聞いたり、写真をみせてもらったりして、子育てはすごいことだとわかった。親はすばらしい。」「ふつうでは聞けないような話を聞くことができた。貴重な体験となった。」との感想が、お母さんからは、「最初は、高校生がどのような形で接してくれるのか想像がつかなかった。ふれあい体験では、とってもかわいがってくれたし、質問をして、子育てについて理解するよう努めてくれていて、本当にうれしかった。赤ちゃんは、誰をも笑顔にしてくれる貴重な存在である。」「子どもにとって、高校生とふれあえて、よい刺激になったと思う。今回、参加申込みを2回分しかしなかったのは残念。このようすばらしい企画だったら、もっと回数を増やして申し込めばよかった。」との感想が語られました。

生徒、お母さんに感想を話してもらうとき、泣いていた赤ちゃんは、ほとんどいませんでしたね。



2013/06/18

赤ちゃんとのふれあい体験が行われました。今日は、2年6組が対象です。雨が降らなくて良かったです。

午前10時5分から体験が始まるのですが、その前から、生徒とお母さんたちは笑顔で会話をしていたように思いましたね。

体験は、まず担当職員から日程等の説明や注意があり、引き続き、松戸市子育て支援課担当の方から、趣旨説明がありました。「いとまきまき〜」の手遊び歌を口ずさみながら、お母さんも生徒もよく手を動かしていましたね。ある赤ちゃんが私のところに本を持ってきて、「一緒に読もうよ」とでも言うような感じで、近づいてきてくれました。私が、他のグループのところで写真を撮っていると、そこまで追っかけてきて、また本を差し出してくれました。

生徒たちは、お母さんたちの話を本当に真剣に聞いていました。あの真剣さと、赤ちゃんをみるときの、また、接するときの、あのやさしい表情は、本当にいいですね。

生徒からは、「赤ちゃんとふれあえて、本当によかった。みんなかわいかった。」、担任からは、「普段、教室ではみられない表情をみることでよかった。生徒たちにとって、貴重な経験となったはず。」との感想が、お母さんからは、「子どもにとって、よい思い出になったと思う。まちで赤ちゃんをみかけたら、手を振ってくれるだけでもうれしいものである。」、「赤ちゃんとのふれあいなんてめんどくさいと考える生徒が一人もいなかったことはすばらしい。毎回、参加しているが、本当によかった。生徒の皆さんも楽しんでもらっているようなので、うれしい限りである。3人の子育てで、イライラすることもあるが、生徒の皆さんから質問を受け、子育てについて初心にもどることができた。子育てにはサポートが必要である。」との感想をいただきました。移動しているときに、「今日は、本当に緊張した。しかし、赤ちゃんと手をつないでいることができた。ほっぺも腕もぷよぷよで、かわいい。」と赤ちゃんの魅力にメロメロになっている生徒がいました。



2013/06/19

6月11日からはじまった高校生と赤ちゃんとのふれあい体験は、今日が最終日となります。今日の対象クラスは、2年5組です。今日のふれあい体験授業を見終わったらすぐに出張してしまうため、今日の体験のようすは、明日のこのコーナーで紹介します。

明日の午後、赤ちゃんとのふれあい体験の締めくくりとして、2年生全生徒対象に、「命の大切さ」をテーマにした講演会を行います。

2013/06/20

ある教室の廊下側のかべに、ふれあい体験の写真と感想が掲示されています。

昨日、今年度最後のふれあい体験が行われました。対象クラスは2年5組でした。スタッフさんの進行のおかげで、体験前から和やかな雰囲気でお母さんと生徒が会話していましたね。久しぶりにお父さんにも参加していただきました。体験は、「とんとんとん、ひげじいさん〜」の手遊び歌ではじまりました。自己紹介もよい雰囲気でした。班長からの3つの質問にも、お母さんたちは本当に真剣に答えてくれていました。また、生徒たちのそれを聞く態度もよかった。写真や画像をみせてもらいながら、また、お母さんの説明を聞きながら、生徒たちは、出産について、育児の大変さについて、理解していたことと思います。また、赤ちゃんを抱っこして、赤ちゃんの可愛さを十分に感じ取ってくれていたと思います。まさに、すばらしいふれあいですね。上手に抱っこし、あやしている生徒に話しかけると、何名かは「兄弟のめんどろをみていた」と答えてくれました。また、緊張しながら「は、はじめての経験です。」という生徒もいました。よい経験になったことでしょう。



生徒からは、「赤ちゃんが、自分のことを受け入れてくれた。抱っこしていたら、安心して寝てくれた。」との感想が、担任からは、「生徒の違った一面をみることができて有意義だった。生徒たちにとっても、よい経験になったことと思う。」、お父さんからは、「少しでも赤ちゃんのかわいさを知ってもらえれば、こんなにうれしいことはない。」、お母さんからは、「出産するとき、本当に痛かった。出産をとおして、自分の親の偉大さを感じた。生徒の皆さんも、親に感謝する気持ちをわすれないでほしい。」との感想をいただきました。

この1週間、2年生にとっては、かけがえのない経験をすることができました。生徒たちの感想は、後日、掲載したいと思います。参加していただいた親子の皆様には、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。何度も来校していただいた方も、かなりいましたね。本当にありがとうございました。また、進行をお手伝いいただいたNPOの方々にも本当に助けられました。松戸市子育て支援課職員の方も、毎日、準備から一番最後まで関わっていただきました。ありがとうございました。このようなすばらしい企画を本校で実施できたこと、うれしいのひとつです。

来年度もまた本校で実施できることを熱望しています。



2013/06/20

5, 6 現目に、2年生対象に、「生命を育む”生と性”」という演題で、講演会が行われました。講師を引き受けていただいたのは、助産師として活躍され、また、いくつもの大学で教鞭をとられている方です。内容はもちろんのこち、話術もすばらしかったです。聴衆を引きつける話し方は、とても参考になりました。

赤ちゃんとのふれあい体験を終えたばかりの生徒には、うなずける部分がとても多かったのではないのでしょうか。

「赤ちゃんは、自分で決めて、自分で覚悟して、生きるために生まれてくる」という言葉は印象に残っています。また、「妊娠中に周囲の人にやさしくされると、出産後、赤ちゃんにやさしくできる」との言葉に、本当にそのとおりだと思いました。妊娠している人が近くにいるときは、心遣いが必要です。

思春期の心と身体、人間関係の傾向等を示していただきました。「思春期は自分をまとめていく時期である。自分がまとまると自分らしさができる。性別にとらわれず、人間としてすてきな在り方（やさしさ・協調性・素直さなど）選んでいくことで、自分をまとめていく。すると、自分らしさが広がっていく。」という言葉で、生徒の皆さんはどのように受け止めたでしょうか。今日の話を、他人ごとではなく、自分のこととしてしっかりと感じ取り、今後の高校生活を過ごしてほしいと願います。

お忙しい中、お越しいただいた講師の先生、松戸市職員の方々には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

